

2024年4月4日

# アジア研究図書館

『アジア研究図書館所蔵柳橋博之氏旧蔵資料目録』（アジア研究図書館叢書5）

刊行報告（早矢仕 裕太） 1

アジア研究図書館ラオス関連所蔵資料について（大村 優介） 4

ベトナム国家公文書館（第二文書館）調査記（澁谷 由紀） 9

日本人によるジャイナ教に関する研究など（英文） — レファレンス事例として —（河崎 豊） 13

アジア研究図書館利用案内

次号の予定

編集後記

編集・発行：東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門  
(RASARL)

〒113-0033

東京都文京区本郷7-3-1

東京大学附属図書館 アジア研究図書館担当

asialib@lib.u-tokyo.ac.jp

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia>

## 『アジア研究図書館所蔵柳橋博之氏旧蔵資料目録』 (アジア研究図書館叢書 5) 刊行報告

早矢仕 悠太

(前・東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門  
(U-PARL) 特任専門職員)

2024年3月にアジア研究図書館研究開発部門(RASARL)から、アジア研究図書館叢書の第5巻として『アジア研究図書館所蔵柳橋博之氏旧蔵資料目録』(以下、『目録』と略記)が刊行された。

本目録は、日本のイスラーム法学研究を牽引し、2023年3月に東京大学イスラーム学研究室を退職された柳橋博之氏(東京大学名誉教授)が、長年の研究において収集した資料のうち、将来のイスラーム法研究の観点から広く利用が望まれる資料371点をアジア研究図書館に寄贈されたことを端緒として、それらを整理・目録化したものである。本コレクションをアジア研究図書館が受贈した経緯や、その作業プロセスについては、『目録』所収の河原弥生氏(RASARL准教授)による「はじめに」に、また柳橋氏の業績や本コレクションの紹介については、小野仁美氏(東京大学大学院人文社会系研究科助教)による「解題」に譲るとして、本稿では報告者が実際に資料を整理し、主としてアラビア語の書誌データを作成した過程から、本コレクションとアジア研究図書館蔵書の関係について所感を記すことにする。

本コレクションの第1の特徴は、イスラーム法学とハディースに関するアラビア語資料の豊富さである。以前より、アジア研究図書館には「6XA:167c(西アジア・アラビア語・ハディース)」や「6XA:320(西ア

ジア・アラビア語・法律)」の分類のもとに、ハディース集や前近代の法学書の所蔵があった。しかしいずれの分類についても、対象とする時代が浅く、断片的であり、ハディース学やイスラーム法学において古典として扱われ、基礎資料となる蔵書を構築するには至っていかなかった。柳橋氏の旧蔵資料は、彼の研究対象がイスラーム法学の形成期にフォーカスしていたこともあり、こうした蔵書の欠缺を埋める役割を果たした。その多くが自動書庫に収められているという点は残念だが、利用者にとってイスラーム法学の古典的著作や、今なお参照される著名なハディース集へのアクセスが向上したことは、当該研究分野の裾野を広げることにも貢献するだろう。

しかし、本コレクションの最大の貢献は、他の点にある。前段と矛盾するかもしれないが、昨今誰もが参照するイスラーム法学書やハディース集は、Internet Archives 経由で利用できたり、テキスト処理を経てデータベース化されていたりする。正直なところ、報告者も外出先や研究会中にふと参照する必要ができたときには、オンラインによる利用が多い。

そうした現代的な事情を差し引いてもなお、本コレクションが抱える意義とは、柳橋氏が海外調査時に収集した、イスラーム法に関する現地の研究書の存在である。氏の蔵書には、資料を入手した場所や発送時

期について書き込まれている。そこからは、氏がパリやチュニス、アンマンなど海外調査の折に、書店をめぐり現地の研究書を集めていたことがわかる。

こうした現地の研究書にはいくつかの価値がある。1 つは、アラビア語圏におけるイスラーム法理解についての分析資料となることである。この分析は前近代のイスラーム法と、中東・北アフリカにおける近現代の法制度、さらには西洋法と比較して行われることが多い。もう 1 つの意義は、イスラーム法の特定分野において、複数の法学派の学説を通覧する記述を提供することである。古典的著作の議論は網羅的ではあるが、自らが属する学派学説の検討にとどまっている。それらにある 1 つのテーマで学派横断的に掘り下げる試みは、イスラーム法全体の法制史的側面を検討する際には欠かせない。また、欧米諸語による同じ関心をもつ研究書と比較して、流通量も限られているため、国内機関未所蔵のものも多く、その希少性は極東という地理的事実を加味すれば一層高まる。

最後に以下では、そうしたアラビア語による研究書のうち、特筆すべきいくつかの資料を『目録』から抜粋して列挙する（冒頭の数字は『目録』における通し番号、末尾丸括弧内の数字は登録番号）。なお編集の都合上、書誌の一部はラテン文字に転写した。本コレクションが、すでにイスラーム法学研究を志している利用者の貴重な研究素材になるだけでなく、イスラームや中東・北アフリカに関連する多様な研究分野への関心を刺激して、研究の裾野が広がっていくことを願ってやまない。

1. 訴訟手続きや司法制度について：裁判における立証方法や判決の要件効果。

231 al-Aḥkām al-ithbāt / Riḍā al-Mazghanī. —

[al-Riyād] : Mu'ahhad al-Idāra al-'Āmma, 1985. — (0015075658)

279 al-Qaḍā' fī al-Sharī'a al-Islāmīya : ḥukmuḥu wa-shurūṭuḥu wa-ādābuḥu : dirāsa muqārana / ta'līf Fārūq 'Abd al-'Alīm Mursī. — Jidda : 'Ālam al-Ma'rifa, 1985. — (0015075666)

2. 契約法について：破産の効果や手続き、リバーや有償消費貸借、契約における射倖性概念を扱う専論。

239 al-Iflās fī al-Sharī'a al-Islāmīya : dirāsa muqārana / 'Abd al-Ghaffār Ibrāhīm Ṣāliḥ. — [al-Qāhira] : Maṭba'at al-Sa'āda, 1980. — (0015079163)

257 al-Ribā wa-al-farḍ fī al-fiqh al-Islāmī : dirāsa muqārana bi-l-awḍā' al-iqtisādīya al-mu'āshira / Abū Sarī' Muḥammad 'Abd al-Hādī. — [al-Qāhira] : Dār al-'Itisām, [19—]. — (0015079106)

266 al-Gharar wa-atharuhu fī al-'uqūd fī al-fiqh al-Islāmī : dirāsa muqārana / ta'līf al-Ṣadiq Muḥammad al-Amīn al-Ḍarīr. — al-Ṭab'a 2. — al-Kharṭūm : al-Dār al-Sūdāniya li-l-Kutub ; Bayrūt : Dār al-Jīl, 1990. — (0015077308)

3. イスラーム法史：特に所有権と売買規定に焦点を当てる。

263 al-Sharī'a al-Islāmīya : tārikḥuhā wa-nazarīyat al-milkīya wa-al-'uqūd / Budrān Abū al-'Aynīn Budrān. — Iskandarīya : Mu'assasat Shibāb Jāmi'a, 1986. — (0015079114)

4. 刑事法について：刑事事件における動機や責任能力の考慮や認定について、学派横断的な観点からの分析。

240 al-Bā'ith al-atharuhu fī al-mas'ūliya al-jinā'iya : dirāsa muqārana bi-aḥkām al-Sharī'a

al-Islāmīya / ‘Alī Ḥasan ‘Abd Allāh al-Sharfī.  
— al-Ṭab‘a 1. — al-Qāhira : al-Zuhrā’ li-l-  
I‘lām al-‘Arabī, 1986. — (0015077266)

5. 統治理論について：251 は統治のための  
権能や委任をめぐる議論を、イスラーム法  
と西洋政治思想の観点から分析。254 はヒ  
スバという市場監督制度の権限について、  
また関連する歴史的なイスラーム世界の市  
場についても扱う。

251 al-Tafwīd fī al-Ikhtiṣāṣ : dirāsa muqārana /  
Bashshār ‘Abd al-Hādī. — ‘Ammān : Dār al-  
Furqān, 1982. — (0015075641)

254 al-Ḥisba wa-al-muḥtasib fī al-Islām / nuṣūṣ  
jam‘uhā wa-qadima lahā nuqūlan ziyāda. —  
Bayrūt : al-Maṭba‘at al-Kāthūlikīya, 1963. —  
(Nuṣūṣ wa-durūs ; 21). — (0015078959)

6. 婚姻法について：離婚撤回の要件効果に  
ついて学派横断的に通覧。加えてエジプト  
とスーダンでの離婚慣行も含む。

258 al-Ruj‘a fī al-fiqh al-Islāmī : dirāsa  
muqārana : ma‘a bayān mā yajrī ‘alayhi al-  
‘amal fī al-maḥākim al-Miṣrīya wa-al-  
Sūdānīya / ‘Abd al-Ghaffār Ibrāhīm Ṣāliḥ. —  
al-Qāhira : Maktabat al-Nahdat al-Miṣrīya,  
1979. — (0015075781)

## アジア研究図書館ラオス関連所蔵資料について

大村 優介

(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 研究機関研究員)

### 1. はじめに

筆者は 2021 年 5 月～2024 年 3 月まで、アジア研究図書館の博士課程学生スタッフとして、アジア研究図書館の業務に関わる機会を得た。筆者の専門は文化人類学であり、2019 年からラオスの首都ビエンチャンを調査地とした研究を行っている。ここではラオスに関する研究の経験に基づきながら、アジア研究図書館のラオス関連所蔵資料について、その傾向や特徴を述べ、さらにその中から数点の資料を紹介するとともに、今後の資料収集に向けた(筆者なりのご提案ができれば幸いである。

### 2. 所蔵資料の規模

アジア研究図書館のラオスに関連する蔵書は東京大学の各種図書館中でも所蔵数が多く、さらに開架の一般図書として容易なアクセスが可能であるという点で、学内でラオスに関連する情報にアクセスする重要な窓口になっていると考えられる。

アジア研究図書館のラオス関連資料は(辞書や、ラオスに限定されない複数地域を対象とした書籍を除き)資料番号では「3-05」に分類されている。実際に書架を訪れてみるとそのスペースは、左から右へ7分

割された一列の書架のうちの、1 区画に満たない範囲に収まっている(下写真)。



ラオス関連資料は赤枠で囲んだ部分  
(筆者撮影)

これはアジア研究図書館の他国に関する資料と比べると少ない部類に入る(例えばすぐ隣にあるタイ関連の資料は一列のうち6区画を占めている)。しかし研究分野や主題を超えて「ラオス」に関する資料が一区画にまとまっていることは珍しく、また東京大学内の図書館ではおそらく最大規模の所蔵数であると考えられる<sup>1</sup>。

国内他図書館に目を転じると、ラオスに

<sup>1</sup> 例えば東京大学 OPAC で「件名」(図書の主題)を「Laos」に設定し検索すると、該当件数は 235 件、そのうちアジア研究図書館は 66 件を所蔵している。さらに OPAC の検索対象ではないがアジア研究図書館に所蔵されているユネスコ・アジア文化センター(ACCU)寄贈識字教育資料には、ラオスで発行された資料が 119 点(うちラオス語のものが 110 点)存在する。また、言語を「ラオ語」に設定し検索すると、該当件数 67 件のうち、32 件はアジア研究図書館所蔵の資料である(自動書庫所蔵の資料を含む。ACCU 識字教育資料を含めば 142 件)(以上、すべて 2024 年 3 月 18 日時点の検索結果)。

関わる資料を多数所蔵している機関としては、JETRO・アジア経済研究所、東京外国語大学、京都大学などが挙げられる<sup>2</sup>。日本国内のラオス研究の重要拠点であるこれらの機関に比べると東京大学の蔵書数は圧倒的に少ないものの、これらの機関に続く所蔵規模を持っていると言えるだろう。

### 3. 背景：ラオスにおける出版事情

先ほど、アジア研究図書館内で他国関連資料に比べ、ラオスに関わる資料の数が少ないことを述べた。これは東京大学に限ったことではなく、「ラオスにおける」、そして「ラオスについての」出版物に関わる事情によるものなのであるが、この点について簡単に述べておきたい。

まず「ラオスにおける」出版事情の重要な背景として、ラオスは人民革命党という党による一党支配体制であり、政府は人民革命党の下に置かれ、出版は政府の厳しい検閲の対象となっているという状況がある。ラオス政治を専門とし、ラオスでの長い研究経験を持つ山田紀彦氏は 2009 年時点で「ラオス語による専門的な本は、ほとんどありません。革命時代の物語や小説が一般向けに出されている程度で、それ以外は党・政府の刊行物です」と述べ、ラオスの出版業界は「非常に小さい」と指摘している<sup>3</sup>。

筆者が 2019 年～2021 年までラオスの首

都ビエンチャンで長期調査を行った際にもこの状況は大きくは変わっていなかった。首都にある比較的規模の大きい図書館としてはラオス国立図書館、ラオス国立大学図書館、ビエンチャン市立図書館などがあるが、ラオス語の書籍は驚くほど少ない。例えば国立図書館で開架でアクセスできるラオス語書籍のスペースは、1 フロアに満たない規模であった。また、民間の書店も片手で数えるほどである<sup>4</sup>。

次に「ラオスについて」の出版物に関わる事情である。ラオスに関する研究を始めようとする直面するのは、(タイやベトナムなど周辺国に関する研究との比較で) ラオスに関する専門書が著しく少ないことである。無論多分野で重要な研究がなされているが、ある程度の分厚さを持った書籍として刊行されることは多くない<sup>5</sup>。さらに、「東南アジア」をタイトルに掲げ、東南アジア内の諸地域に関する複数の論考を収めた論文集を開いてみても、ラオスに関する論考は含まれていないことはしばしばある。その背景には、1975 年に一党体制になって以降、1990 年代末頃までしばらく国外研究者による現地調査が強く制限されており、現在も研究テーマによっては調査活動が困難なことがある。さらに、国外の研究者がラオスで研究活動を行う際の窓口となる研究機関も充実しているとは言えない。

<sup>2</sup> 各機関の OPAC での検索結果によれば、「件名」または「主題」を「Laos」に設定し検索した場合、アジア経済研究所が 3324 件、東京外国語大学が 1089 件、京都大学が 557 件であった。他方、言語設定を「ラオス語」とした場合、東京外国語大学が 1908 件、アジア経済研究所が 1138 件であった（京都大学 OPAC では言語設定のみの検索ができなかった）（すべて 2024 年 3 月 18 日時点の検索結果）。

<sup>3</sup> 山田紀彦、2022 年（印刷版 2013 年）、「ラオスの新聞と資料について」、p76、東南アジア逐次刊行物プロジェクト編、2022 年（印刷版 2013 年）、『東南アジア逐次刊行物の現在～収集・活用のためのガイドブック』（デジタル版）、Japan-ASEAN Transdisciplinary Studies Working Paper Series No. 14、pp. 76-80。ラオスに関する記述は、2009 年 10 月 30 日におけるヒアリングに基づき収録された内容。

<sup>4</sup> 2023 年現在首都ビエンチャンにある民間の書店については、本ニューズレターの第 14 号において千葉綾乃氏が詳細に報告している（澁谷由紀・千葉綾乃・チンガイリャン、2023 年、『東京大学アジア研究図書館ニューズレター』第 14 号、pp.13-15）。

<sup>5</sup> 日本全国の大学図書館等の所蔵に関するデータベース CiNii Books で「件名」を「Laos」に設定すると検索結果は 2496 件と表示されるが、「Thailand」では 16164 件、「Vietnam」では 10056 件がヒットした（すべて 2024 年 3 月 18 日時点での結果）。

#### 4. 所蔵資料の特徴

アジア研究図書館の所蔵資料に話を戻せば、まず特筆すべきはラオス語資料の存在である。東京大学全体のラオス語資料のうち、半数以上がアジア研究図書館に所蔵されている（自動書庫所蔵資料を含む）<sup>6</sup>。内容を見ると辞書、文法書、仏教（上座部仏教）関連書、歴史書などである。ラオス語書籍の多くは政府系機関（国立図書館、国立大学、教育省）によって出版された書籍・報告書であるが、民間書店による出版物も数点含まれている。また、開架ではなく事前の閲覧申請が必要な資料ではあるが、ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）から寄贈された識字教育資料が所蔵されており、ラオス語で作成されたパンフレット、ポスター、冊子などが計 110 点閲覧可能である（他に英語の識字教育資料が 9 点ある）。

ラオス関連資料の所蔵場所は基本的にアジア研究図書館フロアの「3-05」の区画であるが、辞書類は同フロアの参考図書コーナー内に配架されている。ラオスで近年出版された国語辞典の他、現体制成立前の 1960 年代に出版された国語辞典、パーリ語 - ラオス語辞典なども含まれている。

また、（非ラオス語の）ラオスに関する報告書や研究書が分野を横断して「ラオス」という括りで集められ、アクセス可能になっていることも重要である。研究書としては近年出版された開発研究、文学、宗教（仏教）研究、文化人類学、歴史学、政治学、植物学等の書籍が含まれており、単一の著者によるモノグラフも、複数著者による論文集もある。その他には探検家による旅行記

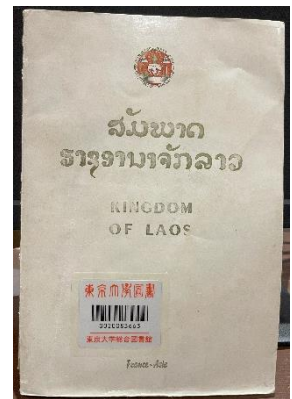
録や、第二次世界大戦後から 1975 年の社会主義体制成立以前の王国政府時代に英語で出版された報告書も所蔵されている。

これら非ラオス語書籍は英語で書かれたものが中心であるが、他に日本語、フランス語、そしてごくわずかであるがタイ語やベトナム語の出版物も置かれている。

#### 5. 所蔵資料紹介

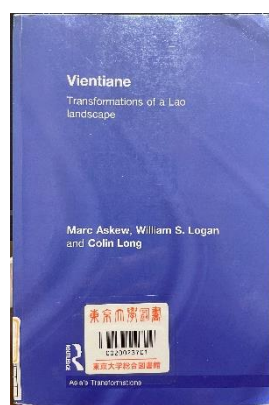
ここからは、上で述べた蔵書の中から資料を 5 点紹介したい。

*Kingdom of Laos*（画像①）<sup>7</sup>は、王国政府時代の 1959 年の出版物である。同書には地理、歴史、芸術、民衆の生活文化、信仰、言語など、多岐にわたる分野の論考が含まれている。執筆者にはフランスの研究者のみならず、ラオスの王族であり首相を数回務めたスワンナ・プーマなど、王族・政治家も含まれている点が特徴的である。



資料画像①（筆者撮影。以下も同様）

近年の研究書を見ると、例えば *Vientiane: Transformations of a Lao Landscape*（画像②）<sup>8</sup>は、ラオスの首都ビエンチャンの成り立ちから現代に至る歴史の変遷について詳細に検討した、世界的に例の



資料画像②

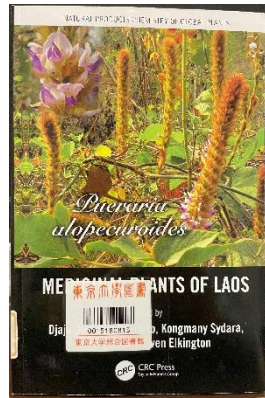
<sup>6</sup> 註 1 を参照。

<sup>7</sup> René de Berval (ed.), 1959. *Kingdom of Laos: the land of the million elephants and of the white parasol*. Saigon: France-Asie. (Originally published in French in 1956)

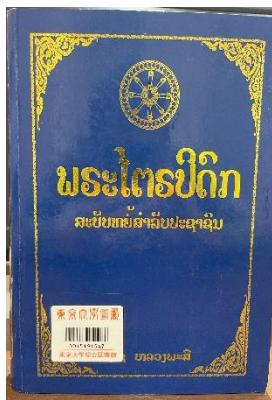
<sup>8</sup> Marc Askew, Williams S. Logan, Colin Long (eds.) 2007. *Vientiane: transformations of a Lao landscape*. London : New York : Routledge.

少ない研究書である。

また、Medicinal Plants of Laos (画像③)<sup>9</sup>はラオスにおける薬用植物の利用状況、分類・名称などについて取り上げている。2023年刊行の新しい著作であるが、現時点で国内図書館唯一の所蔵だと考えられる<sup>10</sup>。



資料画像③



資料画像④



資料画像⑤

ラオス語の資料では仏教や近代以前の歴史に関する書籍が目立つ。例えば **ພະໂຕສປິດົກ ສະບັບຫຍໍ້ສຳລັບປະຊາຊົນ** (*Ph-ratraipidok: sabap nyo samlap pasason*) (画像④)<sup>11</sup>は上座部仏教に伝わるパーリ経典のラオス語訳・要約版であり、本文部分は 811 ページに及ぶ。画像⑤の **ປະເພນີລາວ** (*Phapheni Lao*)<sup>12</sup>は「ラオスの伝統」を意味するタイトルであるが、ラオスの人口のマ

ジョリティを占める（エスニシティとしての）ラオの人々の間で上座部仏教の信仰と関連して長らく行われてきた、様々な儀礼・習慣（例えば生死、結婚、出家などに関わるもの）について解説している。主たる著者は著名な歴史学者・文学者のマハー・シラー・ウィラウオンであるが、三人の僧侶も執筆に加わっている。

## 6. 今後の資料拡充に向けて

最後に、ここまで紹介してきたアジア研究図書館のラオス関連資料の蔵書規模をさらに拡充・充実させる上での方向性について、筆者なりの見解を述べたい。

「2. 所蔵資料の規模」、「4 所蔵資料の特徴」で述べたように、アジア研究図書館のラオスに関連する蔵書は他地域に関するものと比べて決して規模は大きくはないが、ラオスに関連する資料を地域別にまとめた状態で閲覧できる点で、東京大学内で貴重な蔵書であると考えられる。今後は「非ラオス語のラオスについての資料(主に研究書・報告書)」と「ラオス語の資料」、どちらの方向でも、さらに資料を拡充していくことが期待される。

「3. 背景」で述べたように、ラオスについての研究書は未だ決して多いとは言えず、研究分野・研究主題の幅・厚みは少しずつ拡大している最中である。その中で日本語の書籍については東京大学内の総合図書館、駒場図書館や、各学部図書館・図書室に各専門分野ごとに配架される可能性がある。

<sup>9</sup> Djaja Djendoel Soejarto, Kongmany Sydara, Bethany Gwen Elkington (eds.) 2023. *Medicinal plants of Laos*. Boca Raton: CRC Press.

<sup>10</sup> 2024年3月18日時点、CiNii Booksによる検索結果。

<sup>11</sup> ດວງໄຊ ຫວອງພະສີ. (trans. & ed.) 2010. ພະໂຕສປິດົກ ສະບັບຫຍໍ້ສຳລັບປະຊາຊົນ. ກຳແພງນະຄອນຫລວງວຽງຈັນ: ສຳນັກພິມຫລວງພາສີ.

<sup>12</sup> ມະຫາສິລາ ວິລະວົງສ໌, ໄພວັນ ມາລາວົງ, ວິເສວັດ ວິໄລຈັກ, ຈັນທະວິສຸກ ລັດຕະນະ. 2014. ປະເພນີລາວ ການສູ່ຂວັນປະເພນີ ແຫ່ງການຕັ້ງຕົ້ນຊີວິດ: ການເກີດ ການບອດ ການແຕ່ງດອງ ການຕາຍ ແລະທັດສະນະວິຈານ. [ນະຄອນຫລວງວຽງຈັນ]: ສຳນັກພິມ ດອກເກດ.



それゆえアジア研究図書館としては、主に英語やフランス語での研究書の出版動向を追うことが重要だろう。特にフランス語の研究書は現在同図書館に数点しかないため、調査・収集は特に高いと考えられる。

他方、ラオス語資料は東京大学内の他館で所蔵される可能性が低く、アジア研究図書館の役割がより一層期待される。その際の障壁の一つとしては、ラオス国外からラオス語の資料を入手することが困難であることが挙げられる<sup>13</sup>。

また、ラオス国内にいたとしても資料の入手は容易ではない。ラオスにおいて書店はほぼ大都市に集中しており、さらに都市部でも書店の数は非常に少ない上、主たるラインナップは児童書、教科書、翻訳本、輸入本であることが多い。それゆえ、書店での購入以外の手段も重要な資料の入手手段となる。例えば、ラオス国立大学が発行している研究報告や学生向けの冊子、政府機関による冊子、首都ビエンチャンにある美術ギャラリーにて販売されている小規模出版の書籍・冊子などが入手候補として考えられる。特に大学・政府機関発行の冊子は（近年ではオンラインで公開されているものも多いが）アポイントメントを取って訪問し直接入手する必要があるなど、収集のハードルが高い。いずれにせよ、特にラオス語資料の入手に際しては、ラオスでの現地調査を行う研究者と連携し、現地調査の中で得られた資料を収集・所蔵することが重要であると言える<sup>14</sup>。

言語にかかわらずジャンルに注目してみた場合、現在特に不足しており今後の入手

候補になると思われるのは、ラオスの芸術・工芸・芸能・伝承に関わる書籍、ラオス語の現代文学作品（小説・詩）、ラオスで発行されている雑誌、国家指導者の著作・発言集、党（ラオス人民革命党）の方針や党大会に関わる冊子などである。特に文学作品については決して出版数は多いとは言えないもののラオスの書店で入手することができ、また、雑誌については近年は大衆雑誌、デザイン専門雑誌、ビジネス業界誌なども発行されており、現代のラオス社会を知る資料として収集の価値があると思われる。

## 7. おわりに

日本においてラオスに関連する資料にアクセスできる図書館は決して多くはない。そんな中でラオスに関心を持ち情報を入手したい、ラオスについて研究を行いたいと考える利用者にとっては、ラオスに関わる資料がまとまっており、開架で手に取ることのできるアジア研究図書館のような場があることは非常に意義深いことである。

既に述べたように、アジア研究図書館のラオス関連資料の蔵書は、ラオス語資料の収集、ラオスについての研究書の収集の両面でまだまだ大いに発展の余地がある。ハイペースにとはいかないかもしれないが、定期的に少しずつ、着実に蔵書の充実が図られることが期待される。

<sup>13</sup> 澁谷由紀・千葉綾乃・チンガイリャン、2023年、『東京大学アジア研究図書館ニューズレター』第14号、pp.13-15.

<sup>14</sup> 例えば筆者は昨年ラオス国立サーカスの歴史に関する冊子（非売品）を入手し、2024年に同冊子をアジア研究図書館に寄贈予定である。筆者は首都ビエンチャンにあるギャラリーのオーナーからその冊子の存在を知り、その後国立サーカスのFacebookページに記載されていた電話番号を見て関係者へ連絡を取り、アポイントを取り、劇場内の事務所で冊子を受け取った。

## ベトナム国家公文書館（第二文書館）調査記

澁谷 由紀

(法政大学兼任教員、東京大学附属図書館アジア研究図書館  
上廣倫理財団寄付研究部門 (U-PARL) 共同研究員)

### 1. はじめに

かつて 2000 年代はじめには、第一に利用申請、閲覧申請、複写申請のそれぞれの段階で許可に多くの日数を要すこと(八尾・岡田 2003)、第二に利用者本人が記した研究計画書やベトナム側研究機関等からの「公文」(正式な紹介状)が必要であったことなどから、ベトナム国家公文書館の利用のハードルは非常に高かった。この 20 年ほどの間、それぞれの許可の段階に要する時間は大幅に短縮されてはきたものの、依然として、ベトナム国家公文書館での調査にはある程度の日数が必要である。

筆者は 2023 年度を通じ、3 期にわたり、ベトナム国家公文書館のうちホーチミン市にある第二文書館 (Trung tâm Lưu trữ quốc gia II) で主にコーチシナ知事コレクション (Phông Goucoch) の文書を調査する機会を得た。この 3 回の調査の経験からは、第二文書館の利用申請、閲覧申請、複写申請のプロセスと所要時間は現在、下記の通りではないかと推定される。

- ①利用申請 (利用者登録) (即日)
- ②閲覧申請 (即日)
- ③館長による閲覧申請許可 (所要 1 日)
- ④館員による閲覧文書・資料の準備 (文書・資料の性質や分量により、所要 1 日～)
- ⑤閲覧 (利用者による)
- ⑥複写申請 (即日)
- ⑦館長による複写申請許可 (所要 1 日)
- ⑧館員による複写 (文書・資料の性質や

分量により、所要 1 日～)

⑨複写費用・閲覧費用の清算 (即日)

⑩複写物と領収書の受け渡し (即日)

以下、具体的に各回の状況について報告したい。なお、第二文書館のスタッフは大変熱心で所蔵文書・資料に精通しており、利用者の疑問点には丁寧に説明をしてくれる。下記の情報は主として調査計画時の参考とし、入館後は積極的にスタッフから情報収集することをお勧めする。第一文書館のウェブサイトで公開されている規定類 (Trung tâm Lưu trữ quốc gia I. 2019) も一読されたい。



ベトナム国家公文書館 (第二文書館)

### 2. 2023 年 8 月予備調査

#### (1) 利用申請

実際に渡航する前に必要な書類を確認するため、6 月 15 日 (木)、第二文書館の Facebook 記載のアドレスに電子メールで問い合わせた。1 日後の 6 月 16 日 (金) に返信があり、必要書類は「パスポートの複写 (bản sao hộ chiếu (passport))」と「所属先

の紹介状、またはベトナム側の身元保証機関からの紹介状 (thư giới thiệu của cơ quan ông / bà đang công tác, hoặc của cơ quan bảo đảm ở Việt Nam)」であり、電子化されていない文書・資料の場合、「(閲覧)申請書(giấy yêu cầu)」を提出した後、1日後に文書・資料が閲覧できる、との教示を受けた。

この教示を受け、筆者のホームライブラリである総合図書館の調査支援担当に英文の紹介状を発行してもらい現地に持参した。英文紹介状に記載されていた内容は、利用者氏名、所属先と職位、研究分野、研究テーマ、利用日(開始日と終了日)であった。8月2日(水)朝9:00前に入館し、日本から持参した紹介状を手渡し、オンライン利用システム AIMS (Phân hệ khai thác trực tuyến) 上で利用申請(利用者登録)を行った。記入した項目は、名前、パスポート番号、住所、電話番号、メールアドレス、氏名、所属先、閲覧の目的、研究テーマであり、いくつかの項目は記入任意であった。

## (2) 閲覧申請と閲覧

この時の調査では、閲覧申請は AIMS ではなく、文書館デスクトップ PC に保存されているエクセルファイルと 2000 年代初頭より使用されている紙の申請書 (phiếu yêu cầu đọc tài liệu) を使用するよう案内があった(理由は不明)。閲覧申請書には、名前、パスポート番号、研究テーマ (chủ đề nghiên cứu)、閲覧希望資料のコレクション名または資料群名、目録番号 (tên phòng / khối tài liệu, mục lục số)、文書番号または資料番号 (ký hiệu hồ sơ / tài liệu)、文書または資料のタイトル (tiêu đề hồ sơ / tài liệu) を記入した。筆者が利用した申請書はベトナム語版であった(2000 年代初頭にはフランス語版も存在していたが、現在も使用されているのかはわからない)。

同日 10:30 頃記入済み申請書を提出すると、翌日 8 月 3 日(木)午後には閲覧でき

るとのことであった。同日 16:15 頃、申請書の文書番号に誤りがあるとのこと申請書の修正を求められるというハプニングがあったものの、予定通り 3 日(木) 14:00 頃から閲覧が可能になった。複写申請には 2 日を要するということであった。この 8 月の予備調査時は読んだ内容を持参したノートパソコンを使って書き写した。電源提供は許可される。

午前、午後の退館時にはそれぞれ、閲覧者名簿にサインを行う。また一定期間の調査終了時(帰国時、複写物受領時等)には閲覧や複写に要した料金を清算する必要がある。清算後は領収書が発行される。

## (3) 利用証の発行

利用証がなくても閲覧は可能だということだが、希望すれば発行していただける。写真はその場で撮影するため、持参する必要はない。利用証があれば、文書館入口の守衛所で毎回パスポートを提示する必要がないため便利である。

## 3. 2023 年 12 月から 2024 年 1 月調査

### (1) 入館

12 月 25 日(月)朝 9:00 前に入館し利用申請をしたところ、前回 8 月と同一の研究テーマのため利用申請は不要であるとのことであった。持参した前回と利用日のみ異なるが他は同一の英文紹介状を提出したところ受理された。

### (2) 閲覧申請と閲覧

この時の調査は 8 月の予備調査時と異なり、文書・資料の検索と閲覧申請は AIMS で行うように指示された。新たに AIMS のアカウントは作らず、前回発行された ID とパスワード(利用証の裏に印字)を用いてログインすればよいとのことであった。

AMIS では、詳細文書検索 (tìm kiếm hồ sơ nâng cao) で、検索対象のコレクション (phòng) を指定したり、仏領期からベトナム

ム共和国期まで、およそ 60 の各コレクションを串刺し検索したりすることが原則として可能である。ただし、文書館側が行う AMIS 側の設定により、特定のコレクションが検索対象に含まれないことがあるので、希望のコレクションや文書・資料が検索しても見つからない場合文書館スタッフに問い合わせる必要がある。

同日 10:50 頃、一枚目の閲覧申請書を AIMS から送信し、同日午後 2 枚目と 3 枚目の閲覧申請書を送信した。AIMS で個人管理 (quản lý cá nhân) というページから請求管理 (quản lý yêu cầu) のページに進むと申請の処理状況を確認できる。

翌 12 月 26 日 (火) は終日文書館に滞在していたが、閲覧許可は下りなかったため、AIMS 上の目録や、閲覧室後方書架に備え付けの紙の目録類 (スタッフに声をかければ閲覧可能) に目を通す時間に充てた。27 日 (水) の朝 8:00 過ぎに入館したところ、25 日 (月) の午後 2 枚目の申請書に記載されている文書の閲覧許可が下りており、実際に閲覧することができた。

この時の調査は西暦の年末年始を挟んだ。通常、ベトナムの国家公文書館は金曜日午後は閉館だが、12 月 29 日 (金) と 1 月 1 日 (祝) は終日閉館であり、1 月 2 日 (火) は開館するとのことであった。

### (3) 複写申請と複写物の受領

申請から受領までは基本的に「2 日かかる (mát hai ngày)」が、館長の不在等によりそれ以上かかることがあるので時間に余裕をもった計画が必要である。

複写申請の手続きは下記の通りであった。まず、閲覧室に置いてある短冊に文書の通し番号、スキャンかコピーかの別を記載し、短冊を半分に折って、複写を希望する原資料を短冊で挟み、短冊の上からクリップで止める。スキャンは電子データが渡されるわけではなく、スキャンして紙に印

刷されるが、カラー刷りである。

次に、AIMS で複写申請を行う。文書番号 (hồ sơ số) ごとに、文書内の通し番号 (số ký hiệu)、抜粋 (trích yếu)、ページ (tờ số)、複写物の合計枚数 (tổng số trang) を記載する。抜粋については、「Gouverneur de la Cochinchine, 3me bureau, N°632-B」というような、(フランス語の) 原資料の通し番号や発行者名ではなく、主題 (何について書かれているのか) を端的に記載するようにと指示があった。この指示を受け、「公田設立に関する〇〇村の郷職の申請書」「〇〇村の国有地の一覧表、1925 年」などとベトナム語で記載した。申請時には複写 (sao chụp) または bản chứng thực (原本と相違ないことの証明を受けた写し) を選択する。

なお、28 日 (木) 午後、申請書を書いて「一時保存」をクリックしたところ、一時間以上かけて記載した内容が消えてしまった。出納された文書の単位ごとに複写申請をするのがベストだろうが、ある程度記入したら送信したほうがよいかもしれない。複写申請には十分な時間的余裕を持ちたい。

この時の調査では、1 月 2 日 (火) 午前複写申請した文書は 1 月 4 日 (木) 午前に受領できる状態になっていた。

## (4) 利用証の更新

利用証の有効期間は毎年 1 月はじめから 12 月 31 日までである。この時の調査では年末年始を挟んだため、1 月に入ってから、2023 年末まで有効の利用証を 2024 年末までの利用証に切り替えていただいた。

## 4. 2024 年 3 月調査

### (1) 入館

2024 年 3 月 8 日 (金) 8:05 に入館した。前回と同一テーマのため、利用者登録は不要であった。前回、前々回と同様、総合図書館発行の紹介状を提出したが、所属先変更がないならば紹介状は不要だということ

であった。なお 8 日（金）は国際女性デーであったが、通常通り午前中は開館だった。

## (2) 閲覧申請と閲覧

前回のアカウントで AIMS にログインし、8 日 9:00 頃に閲覧申請を行った。この時の調査では串刺し検索が可能であったため、コーチシナ知事コレクション以外のコレクションに含まれる文書も閲覧申請した。コレクションが異なる文書を一度に閲覧申請する場合、コレクションごとに異なる請求番号 (số yêu cầu) の閲覧申請書が作成された。土日を挟み、3 月 11 日（月）13:30 に入館したところ、閲覧許可は下りており、文書準備中であった。1 時間ほどで最初の文書が準備済みになり閲覧できた。

なお、前回閲覧した文書の再閲覧も希望していたが、「他の読者が閲覧中」のため、閲覧申請できない文書が多かった。デジタル化作業等による利用停止も想定されるので、研究期間中に調査は複数回想定しておくのが望ましいと思われる。

## (3) 複写申請と複写物の受領

11 日（月）16:00 頃に複写申請した文書は、12 日（火）朝 8:00 の段階で館長決裁待ちであった。同日 9:30 には決裁が完了しており、13 日（水）午前に確認したところ受領可能な状態になっていた。

## 5. おわりに

以上のように、2023 年から 2024 年はじめの段階では、最短で 1 週間程度ホーチミン市に滞在すれば、利用申請から複写物と領収書の受け渡しまでをなんとか完了することができる。とはいえ、この 1 週間程度というのはごく順調に許可が下りた場合に限られる。調査計画の際には依然として余裕を持った日程を組むことを推奨したい。

### [参考文献]

米川恒夫. 2007. 「ベトナムの公文書館制

度について」『アーカイブズ』26: 57-72.

[https://www.archives.go.jp/publication/archives/wp-](https://www.archives.go.jp/publication/archives/wp-content/uploads/2015/03/acv_26_p57.pdf)

[content/uploads/2015/03/acv\\_26\\_p57.pdf](https://www.archives.go.jp/publication/archives/wp-content/uploads/2015/03/acv_26_p57.pdf)

富塚あや子. 2019. 「ベトナム国立第三公文書館」東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門 (U-PARL) 編『世界の図書館からアジア研究のための図書館・公文書館ガイド』75-79. 勉誠出版.

八尾隆生・岡田建志. 2003. 「ベトナム史料」池端雪浦ほか編、早瀬晋三・桃木至朗編集協力『東南アジア史研究案内』(岩波講座東南アジア史別巻) 124-129. 岩波書店.

Hà Kim Phuong, ed. 2015. *Tài liệu phong Phủ Thống đốc Nam Kỳ (1858 - 1945): Giá trị một nguồn di sản = The document of the Government of Cochinchina collection (1858 - 1945) : Documentary heritage potentiality = Le fonds du Gouvernement de la Cochinchine (1858 - 1945) : La valeur d'un patrimoine*. Hà Nội: Chính trị Quốc gia.

[https://vietphap.luutru.gov.vn/tructuyen/UPLOADS/SachchidanPhong/Sach%20Phong%20Phu%20Thong%20doc%20Nam%20Ky%20\(11-3-2015\).pdf](https://vietphap.luutru.gov.vn/tructuyen/UPLOADS/SachchidanPhong/Sach%20Phong%20Phu%20Thong%20doc%20Nam%20Ky%20(11-3-2015).pdf)

Trung tâm Lưu trữ quốc gia I. 2019. “Nội quy phòng đọc.” Accessed on March 27, 2024. <https://archives.org.vn/phong-doc/noi-quy-phong-doc.htm>

\*2023 年 12 月から 2024 年 1 月調査と 2024 年 3 月調査にあたっては JSPS 科研費 19K13441 の助成を受けた。

## 日本人によるジャイナ教に関する研究など (英文)

### — レファレンス事例として —

河崎 豊

(東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門 助教)

Kristi L. Wiley の *Historical Dictionary of Jainism* (BA72121707; アジア研究図書館では、このペーパーバック版である *The A to Z of Jainism* を所蔵している。分類記号は 4-01 W:168c:wil) は、ジャイナ教教義や歴史を網羅的に扱う、正確な内容を持つ手ごころな事典である。巻末に収められたジャイナ教に関する二次文献の書誌一覧は、本書出版時 (2004 年) までに公表された主要な諸研究を要領よくまとめ、初学者から専門家まで重宝する。とはいえ、出版から 20 年を経、この間にジャイナ教研究もさすがに深化した。とりわけ、扱う分野の細分化と文化人類学方面での進展は目覚ましい。新たな項目の追加はもちろん、巻末の書誌一覧には根本的な増補が必要である。

そして今、アメリカでその改訂版の編集が進行中である。当然、この改訂には書誌情報の大幅な増補も含まれるため、編者のひとりから 2023 年 10 月 10 日に「日本人の研究者が英語で公表したジャイナ教に関する業績が知りたい」といった趣旨の問い合わせを受けた。他の西洋諸語や日本語、現代インド諸語を含めず「英語で」というのは、単に版元の意向である<sup>1</sup>。

さてこの手のことを調べる場合、日本人研究者であれば、最初に INBUDS つまり「インド学仏教学論文データベース」 (<https://www.inbuds.net/>) にアクセスする

であろう。これを用いることで、本邦で出版された論文集や学術誌の情報をおおむねカバーできる — と期待する — からである。そこでまず当サイトを紹介したが、用をなさない旨の連絡をうけた。そこで筆者自ら書誌一覧の作成に着手し、11 月 20 日に送付した。最初の問い合わせで“The goal of the four of us is to assemble a bibliography that is as comprehensive as possible.” とあった (the four とは、この件に携わる研究者が Wiley の他に 3 名いることを指す) ため、網羅性を重視した。

しかし、そのリストで示した情報が全て新たな事典に収録されるかどうかは不明である。その事典がいつ出版されるかも現時点では未定である。筆者が 11 月 20 日に送付した一覧を改めて見てみると、見落としやタイポが散見される。以上を鑑み、最初に筆者が送付したリストに対する 2024 年 3 月 28 日時点での改訂版をここに公表し、併せてレファレンスの一例として報告する。将来、ジャイナ教の書誌データベース — 北米では作成の機運があるとも聞く — が作成されるまでのおしのごし、また本事典の編集者らと同様、この種の情報を必要とする誰かのためになれば幸いである。いつかの未来にどこかの有徳の人が日本のジャイナ教研究史を書く時には、多少の役に立つかもしれない。

<sup>1</sup> ゆえに Okuda, Kiyooki. *Eine Digambara-Dogmatik: Das fünfte Kapitel von Vaṭṭakeras Mūlācāra*. Alt- und Neu-Indische Studien 15. Wiesbaden: In Kommission bei F. Steiner, 1975. など、英語以外の西洋語で書かれた文献は、以下のリストに含まれていない。

書誌情報の記し方は *Historical Dictionary of Jainism* の書式を踏襲したが、本誌に掲載するにあたり、日本語話者の便を考慮して日本語の情報を挿入した。人名の漢字表記や学術誌の日本語名などである。

日本でジャイナ教を専らとする者は少ない。ゆえに英語で著された論文数も限定的である。短期間で一覧化しえた所以である。とはいえ生来 *pramatta* な人間による一覧化である上、筆者はいわゆるインド古典文献学の中に棲む者であり、文化人類学をはじめとする他分野の成果に疎いことを自覚している。情報の補足を乞う次第である。

最後に、昨年作成した最初の草稿に対し、西坂季恵、藤永伸、堀田和義から教示を得たことを、感謝をこめて記す。

Akamatsu, Akihiko (赤松明彦). “Jaina Studies in Japan since the 1990s.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.65, No.3 (2017): 1115-1121.

———. “Doxography and Perspectivism in Premodern India: How Is It Possible to Be Neutral?” *Senri Ethnological Studies* 96 (2017): 159-174.

Arai, Toshikazu (新井俊一). “Jaina Kingship in the *Prabandhacintāmaṇi*,” in *Kingship and Authority in South Asia*, ed. J.F. Richards, pp. 92-132. Delhi: Oxford University Press, 1998.

Aramaki, Noritoshi (荒牧典俊). “The Jaina and the Early Buddhist *sāṃkhyā*- and the Epic *sāṃkhyā*.” in *Buddhism and Jainism: Essays in Honour of Dr. Hojun Nagasaki on His Seventieth Birthday* (仏教とジャイナ教 : 長崎法潤博士古稀記念論集), pp.29-57. Kyoto: Heirakuji Shoten, 2005.

Asano, Gensei (浅野玄誠). “A Dispute about the Concept of Buddhist Meditation by Haribhadra-sūri.” *The Dohodaigaku Ronso: The Journal of Buddhism and Cultural Science* (同朋大学論叢) 81/82 (2000): 15-25.

Fujimoto, Yumi (藤本有美). “On Rules of *upasam-padālocanā* in *Vyavahārabhāṣya* 1.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.59, No.3 (2011): 1116-1121.

———. “About *Vyavahārabhāṣya* on *Vyavahārasūtra* I, 1-20.” *Journal of Jaina Studies* (ジャイナ教研究) 18 (2012): 1-13.

———. “Rules for *Pratimā* in *Vyavahārabhāṣya* I,” *Jaina Studies: Select Papers presented in the ‘Jaina Studies’ Section at the 16th World Sanskrit Conference, Bangkok, Thailand & the 14th World Sanskrit Conference, Kyoto Japan*, eds. Nalini Balbir and Peter Flügel, pp. 45-53. New Delhi: DK Publishers, 2018.

Fujinaga, Shin (藤永伸). “Recollection as *pramāṇa*.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.36, No.1 (1987): 463-460.

———. “The Concepts of Bhavya in Early Jainism.” *Jinamañjarī* Vol.14, No.2 (1996): 8-18.

———. “A Narrative from Jaina Literature.” *Jinamañjarī* Vol.18, No.2 (1998): 3-7.

———. “Samantabhadra’s Epistemology: Combining Jaina Ideas with the Ideas of Other

Schools,” in *Approaches to Jaina Studies: Philosophy, Logic, Rituals and Symbols*, eds. N.K. Wagle and Olle Qvarnström, pp. 131-137. Toronto: The Centre for South Asian Studies, 1999.

———. “Kundakunda on Sarvajña.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.47, No.2 (1999): 1002-999.

———. “Distinguishing the Two Siddhasenas.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.48, No.1 (1999): 572-567.

———. “Akalaṅka’s Theory on Sarvajña: Proving the Existence of Omniscience,” in *Indo no bunka to ronri: Tosaki Hiromasa hakase koki kinen ronbunshū* (インドの文化と論理 : 戸崎宏正博士古稀記念論文集), ed. Akihiko Akamatsu, pp. 717-730. Fukuoka: Kyushu Daigaku Shuppankai, 2000.

———. “On Mokṣamārga,” in *Jainism and Early Buddhism: Essays in Honor of Padmanabh S. Jaini*, Part I, ed. Olle Qvarnström, pp. 205-216. Fremont: Asian Humanities Press, 2003.

———. “Samantabhadra’s Criticism on the Buddhist Notion of Omniscience,” in *Indo tetsugaku Bukkyō shisoshi ronshū: Mikogami Esho kyoju shoku kinen ronshū* (インド哲学佛教思想論集 : 神子上恵生教授頌寿記念論集), pp. 1111-1121. Kyoto: Nagata Bunshodo, 2004.

———. “Some Remarks on the Publications of Jain Texts,” in *Abhyuday se Niḥśreyas*, ed. Manish Modi, pp. 208-211. Mumbai: Hindi Granth Kalyalay, 2004.

———. “Samantabhadra, Siddhasena, and Akalaṅka.” *The Annals of the Research Project Center for the Comparative Study of Logic* (比較論理学研究) 2 (2005): 53-56.

———. “Hemacandra on Sarvajña,” in *Buddhism and Jainism: Essays in Honour of Dr. Hojun Nagasaki on His Seventieth Birthday* (仏教とジャイナ教 : 長崎法潤博士古稀記念論集), pp.59-67. Kyoto: Heirakuji Shoten, 2005.

———. “Why Must There Be an Omniscient in Jainism?” in *Studies in Jaina History and Culture: Disputes and Dialogues*, ed. Peter Flügel, pp. 107-116. London & New York: 2006.

———. “Śvetāmbara Canons in the Digambara Tradition.” *The Annals of the Research Project Center for the Comparative Study of Logic* (比較論理学研究) 3 (2006): 101-105.

———. “Some Thoughts on Jaina Cosmology.” *Journal of Jaina Studies* (ジャイナ教研究) 12 (2006): 35-49.

———. “Digambara Attitudes to the Śvetāmbara Canon.” *International Journal of Jaina Studies* (Online) Vol.3, No.5 (2007): 1-11.

———. “Dharma and Adharma in Jain Ontology,” in *Jaina Studies, Papers of the 12th World Sanskrit Conference Vol.9*, ed. Colette Caillat and Nalini Balbir, pp. 61-67. Delhi: Motilal Banarsidass, 2008.

———. “Jinabhadra’s *Bṛhatsamgrahaṇī* and Malayagiri’s Commentary on It,” in *Jaina*



*Studies: Proceedings of the DOT 2010 Panel in Marburg, Germany*, ed. Jayandra Soni, pp. 213-221. New Delhi: Aditya Prakashan, 2012.

———. “Cosmology in the Yogaśāstra.” *Journal of Jaina Studies* (ジャイナ教研究) 18 (2012): 15-28.

———. “Title of the Second Mūla Sūtra.” *Journal of Jaina Studies* (ジャイナ教研究) 18 (2012): 47-52.

———. “A List of Quotations in Malayagiri’s Commentary on the *Bṛhatsamgrahaṇī* of Jinabhadra.” *Journal of Jaina Studies* (ジャイナ教研究) 20 (2014): 25-51.

———. “Śvetāmbara Āgamas in the Digambara Tradition,” in *Jaina Scriptures and Philosophy*, eds. Peter Flügel and Olle Qvarnström, pp. 34-40. London & New York: Routledge, 2015.

———. “Another Aspect of Jain Mendicant Life in the *Vyavahārasūtra* and Its Commentaries,” in *Sanmati: Essays Felicitating Professor Hampa Nagarajaiah on the Occasion of His 80th Birthday*, eds. Luitgard Soni and Jayandra Soni, pp. 195-199. Bengaluru: Sapna Book House, 2015.

———. “Nuns in Jainism.” *Bulletin of the Institute of Shin Buddhist Culture* (真宗文化) 31 (2022): 35-42.

———. “How and Why Do the Jains Abandon Their Bodies? *Kāyotsarga* according to *Yogaśāstra* of Hemacandra.” *Bulletin of the Institute of Shin Buddhist Culture* (真宗文化) 32 (2024): 27-33.

Fujinaga, Shin and Matsuoka, Hiroko (藤永伸・松岡寛子). “A Tentative List of Works by Jambūvijaya Jī.” *Journal of Jaina Studies* (ジャイナ教研究) 16 (2009): 91-140.

Fujinaga, Shin et al. “*Vyavahārasūtra Bhāṣya Pīṭhikā*,” in *Buddhist and Jaina Studies: Proceedings of the Conference in Lumbini, February 2013*, eds. J. Soni, M. Pahlke, and C. Cüppers, pp. 219-227. Lumbini: Lumbini International Research Institute, 2014.

Hara, Minoru and Yajima, Michihiko (原實・矢島道彦). *A Bibliography of Prakrit Language and Literature*. Tokyo: s.n., 1985.

Harada, Yasunori (原田泰教). “Mokṣa in Jainism: With Special Reference to Haribhadra Sūri.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol. 54, No.3 (2006): 1126-1132.

———. “Haribhadra Sūri on Momentariness.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.55, No.3 (2007): 1062-1067,

Hata, Masatoshi (畑昌利). “Conversion of Jains in Pāli Buddhist Scriptures.” *Journal of Jaina Studies* (ジャイナ教研究) 20 (2014): 53-60.

Hayashi, Takao (林隆夫). “Geometric Formulas in the *Dhavalā* of Vīrasena (780 C.E).” *Jinamāñjarī* Vol.14, No.2 (1996): 53-76.

Honda, Megumu (本田恵). “An Index to the Philosophical Sūtras, No. II.” *Proceedings of the Okurayama Oriental Research Institute* (大

倉山学院紀要) 3 (1959): 43-167. [\* Combined word index to the five Buddhist philosophical treatises and the *Tattvārthādhigamasūtra*. --- Kawasaki.]

Hotta, Kazuyoshi (堀田和義). “Jaina’s Criticism of Buddhist Theory: On Stanzas 15-19 of *Pañcāstikāyaśaṃgraha*.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol. 55, No.3 (2007): 1068-1072.

———. “Examination of the Newly-Arrived Monk in Jain Vinaya Texts.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.62, No.3 (2014): 1119-1123.

———. “Report on Conference in Japan, 2013.” *Jaina Studies: Newsletter of the Centre for Jaina Studies* 9 (2014): 20-21.

———. “Is It Possible to Prove Inherence? Bhāvasena’s Critique of *Samavāya* Theory.” *Journal of Jaina Studies* (ジャイナ教研究) 20 (2014): 1-24.

———. “Under Which Conditions Is *Sallekhanā* Permitted for Jain Laity?” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.64, No.3 (2016): 1119-1124.

———. “On Corresponding Sanskrit Words for the Prakrit Term *Posaha*: With Special Reference to Śrāvakācāra Texts.” *International Journal of Jaina Studies* (Online) Vol.13, No.2 (2017): 1-17.

Kawasaki, Yutaka (河崎豊). “A Note on *Uttarajjhāyā* 25.18.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.54, No.3 (2006): 1121-1125.

———. “Anatomy in the *Bhagavatī Ārādhanā*.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.59, No.3 (2011): 1109-1115.

———. “Vīrabhadra’s *Ārāhaṇāpadāyā*: A Preliminary Report.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.60, No.3 (2012): 1161-1168.

———. “Interpretations of *adattādāna* in Jainism.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.62, No.3 (2014): 1113-1118.

———. “List of the Corresponding Verses and Passages of the *Bhagavatī Ārādhanā*.” *Journal of Jaina Studies* (ジャイナ教研究) 15 (2015): 15-64.

———. “Haribhadra on Property Ownership of Buddhist Monks.” *International Journal of Jaina Studies* (Online) Vol.13, No.5 (2017): 1-12.

———. “Materials for the Study on the Characteristics of Mahavīra’s and the Buddha’s Physical Body,” in *Jaina Studies: Select Papers presented in the ‘Jaina Studies’ Section at the 16th World Sanskrit Conference, Bangkok, Thailand & the 14th World Sanskrit Conference, Kyoto Japan*, eds. Nalini Balbir and Peter Flügel, pp. 31-44. New Delhi: DK Publishers, 2018.

———. “Rare Sanskrit Words from the Sanskrit Commentary on the *Bṛhatkalpa-bhāṣya*.” *Journal of Jaina Studies* (ジャイナ教研究) 26 (2020): 61-79.

- . “A Note on the Concept of Compassion in Early Jainism,” in *Nagabharana: Recent Trends in Jainism: Festschrift to Prof. Hampa Nagarajaiah (Hampana)*, ed. Pedarapu Chenna Reddy, pp. 119-128. Noida: BlueRose Publishers, 2022.
- Kawasaki, Yutaka et al. “New and Rare Words” Collected by Helen M. Johnson from *Hemacandra’s Triṣaṣṭiśalākāpuruṣacaritra: Compiled with Correction and Additional Notes*. Tokyo: Uehiro Project for the Asian Research Library, The University of Tokyo Library System, 2022.
- Kawasaki, Yutaka et al. *Pariśiṣṭaparvan: Pāda Index and Reverse Pāda Index*. Philologica Asiatica Monograph Series 28. Tokyo: Chūō Academic Research Institute, 2012.
- Kobayashi, Hisayasu (小林久泰). “Some Notes on *Brahmacarya* in Jainism.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.62, No.3 (2014): 1106-1112.
- . “The Jain Opponents in Buddhist Epistemological Tradition: Two Contemporary Persons Named Sumati.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.69, No.3 (2021): 1105-1111.
- Komori, Kentarou (小森健太朗). *Swami Taran Taran’s Siddha Svabhava & Shunya Svabhava (English Edition)*. Kindle edition. Amazon Services International, 2022.
- Kondo, Osamu (近藤治). “A Wealthy Jain Merchant of Ahmadabad and the Mughal Authorities,” in his *The Early Modern Monarchism in Mughal India, with a Bibliographical Survey*, pp. 127-155. Kyoto: Shoukadoh, 2012.
- Korematsu, Hiroaki (是松宏明). “Mystical Union between a Meditating Subject and Meditational Objects in Tantric Meditation in Jainism: The Meditation Engaged in Forms in *Jñānārṇava* by Śubhacandra.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.68, No.3 (2020): 1120-1123.
- . “Jaina Studies in Japan: Conference Reports.” *Jaina Studies: Newsletter of the Centre for Jaina Studies* 15 (2020): 16-17.
- . “Jaina Studies in Japan 2021[sic]: Conference Reports.” *Jaina Studies: Newsletter of the Centre for Jaina Studies* 16 (2021): 50-51.
- . “Breath-control Described in the *Jñānārṇava* by Śubhacandra of Digambara,” in *Swastika: Epigraphy, Numismatics, Religion and Philosophy: Festschrift to Prof. Hampa Nagarajaiah (Hampana)*, ed. P. Chenna Reddy, pp. 185-190. Delhi: Bluerose Publishers, 2022.
- Matsunami, Seiren (松濤誠廉). “Buddhistic Variants of Two Portions of the *Isibhāsiyāim*.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.9, No.2 (1961): 748-741.
- Matsuoka, Hiroko (松岡寛子). “Report on the Accident of Param Pujya Munishri Jambuvijayji Maharaj Saheb.” *Anusandhāna* Vol.50, No.2 (2010): 249-257.
- Nagasaki, Hojun (長崎法潤). “A Study of the *Pramāṇamīmāṃsā*: An Incomplete Work on

Jaina Logic.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.14, No.2 (1966): 868-861.

———. “Karma and Liberation of Mahāvīra Discussed in Early Buddhist Texts.” *Journal of Jaina Studies* (ジャイナ教研究) 10 (2004): 51-76.

Nakamura, Hajime (中村元). “Tolerance, Peace and War: A Buddhist Scripture Setting Forth a Sermon by a Jain Ascetic.” *The Voice of Ahimsā* Vol.5, Nos.1-2 (1955): 79-82.

———. “A Jain Influence upon the Scriptures of Early Buddhism.” *The Voice of Ahimsā* Vol.6, Nos. 3-4 (1956): 85-86.

———. “The Doctrine of Jainism Allegedly Introduced by Āryadeva,” in *Śrīmad Rājendrasūri Smāraka Grantha*, ed. Yatīndrasūri et al., pp. 817-819. Āhora and Bāgarā: Śrī Saudharmabṛhattapāgacchīya Jaina Śvetāmbara Śrī Saṃgha, 1957.

———. “References of Jainism in Chinese Versions of Early Buddhist Scriptures.” *The Voice of Ahimsā* Vol.7, No.1 (1957): 18-19, 30.

———. “The Sage Rṣabha Noticed in the Chinese Versions of Buddhist Scriptures.” *The Voice of Ahimsā* Vol.7, Nos.3-4 (1957): 87-88.

———. “Notes on the Third Chapter (on Jainism) of the *Sarvadarśanasamgraha*,” in *Pratidānam: Indian, Iranian and Indo-European Studies Presented to Franciscus Bernardus Jacobus Kuiper on His Sixtieth Birthday*, eds. J.C. Heesterman, G.H. Schokker, and V.I. Subramoniam, pp. 512-517. The

Hague; Paris: Mouton, 1968.

———. “Bibliographical Survey of Jainism.” *The Journal of Intercultural Studies* 1 (1974): 51-75.

———. “Common Elements in Early Jain and Buddhist Literature.” *Indologica Taurinensia* 11 (1983): 303-330.

Ohira, Suzuko (大平鈴子). *Dhyānastava of Śrī Bhāskaranandi*. Māṇikacandra D. Jaina Granthamālā 54. New Delhi: Bhāratīya Jñānapīṭha, 1974.

———. “Treatment of Dhyāna in the *Tattvārthādigamasūtra*.” *Indian Philosophical Quarterly* Vol.3, No.1 (1975), pp. 51-64.

———. “Jaina Concept of Siddhas.” *Sambodhi* Vol.4, Nos.3-4 (1975-76), pp. 17-21.

———. “A Comparative Study of Jhāṇajjhayaṇa by Jinabhadra and Dhyānastava by Bhāskaranandi,” in *Proceedings of the Seminar on Prakrit Studies* (1973). L.D. Series 70, pp. 42-45. Ahmedabad: L.D. Institute of Indology, 1978.

———. “Yoga Triplet.” *Jain Journal* Vol.14, No.4 (1980): 135-140.

———. “Problems of the Purva.” *Jain Journal* Vol.15, No.2 (1980): 41-55.

———. “Śukla-dhyāna,” in *Studies in Indian Philosophy: A Memorial Volume in Honour of Pandit Sukhlalji Sanghvi*. L.D. Series 84, pp. 267-277. Ahmedabad: L.D. Institute of Indology, 1981.

- . *A Study of the Tattvārthasūtra with Bhāṣya: With Special Reference to Authorship and Date*. L.D. Series 86. Ahmedabad: L.D. Institute of Indology, 1982.
- . “Jaina Concept of Atomic Combination,” in *Studies in Jainism*, eds. M.P. Marathe, Meena A. Kelkar, and P.P. Gokhale, pp. 37-48. Pune: I.P.Q. Publications, 1984.
- . “An Abstract of ‘A Study of the Bhagavatīsūtra: A Chronological Analysis,’” in *Jain Studies in Honour of Jozef Deleu*, eds. Rudy Smet and Kenji Watanabe, pp. 395-411. Tokyo: Hon-no-tomosha, 1993.
- . *A Study of the Bhagavatīsūtra: A Chronological Analysis*. Prakrit Text Series No. 28. Ahmedabad: Prakrit Text Society, 1994.
- . “The 24 Buddhas and the 24 Tīrthaṅkaras.” *Jain Journal* Vol.29, No.1 (1994): 9-22.
- . “Jainism and Unification Thought.” *Jain Journal* Vol.31, No.1 (1997): 85-97.
- . “The Jaina Universe in a Profile of Cosmic Man.” *Anusamdhāna* 17 (2000): 101-109.
- Sato, Koju (佐藤宏宗). “Yaśovijaya on Perception: Some Aspects of Avagraha in the Process of Cognition,” in *Jainism and Early Buddhism: Essays in Honor of Padmanabh S. Jaini*, Part I, ed. Olle Qvarnström, pp. 269-292. Fremont: Asian Humanities Press, 2003.
- . “A Reconsideration of the Classification of Pramāṇa in Jainism: Yaśo-  
vijaya’s Placement of Pratyakṣa.” *Toho* (東方) 19 (2004): 150-171.
- . “An Etymological Explanation of ‘Pratyakṣa’ in Late Jainism,” in *Buddhism and Jainism: Essays in Honour of Dr. Hojun Nagasaki on His Seventieth Birthday* (仏教とジャイナ教 : 長崎法潤博士古稀記念論集), pp.69-90. Kyoto: Heirakuji Shoten, 2005.
- . “An Introduction to Prabhācandra’s Theory of Sambandha.” *Journal of Jaina Studies* (ジャイナ教研究) 13 (2007): 1-32.
- . “An Analytical Report on Yaśovijaya’s Theory of Parokṣa: The Classification of Pramāṇa in Late Jainism.” *Journal of Jaina Studies* (ジャイナ教研究) 17 (2011): 1-18.
- Shiga, Kiyokuni (志賀浄邦). “Durvekamiśra’s Reference to a Jaina Theory.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.53, No.1 (2004): 470-467.
- . “Conflicts and Interactions between Jaina Logicians and Arcaṭa.” *Journal of Jaina Studies* (ジャイナ教研究) 19 (2013): 19-68.
- . “Arcaṭa’s Views Introduced in Jaina Treatises.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.62, No.3 (2014): 1272-1279.
- . “An Objection in the Hetubindu Ascribed to the Jainas.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.64, No.3 (2016): 1255-1262.
- . “Problems Concerning *Āptamīmāṃsā* 59.” *Journal of Indian and Buddhist Studies*

(印度學佛教學研究) Vol.65, No.3 (2017): 1122-1129.

———. “Dialogues on Substance (*dravya*) and Modification (*pariyāya*) between Jaina and Buddhist Philosophers: Origin and Development.” *Journal of Jaina Studies* (ジャイナ教研究) 25 (2019): 17-73.

———. “Jaina Doctrines Transmitted by Tibetan Buddhists.” *The Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko* 78 (2020): 85-114.

———. “The Relationship between the Jainas and the Buddhist Treatise *Tattvasaṃgraha*(-*pañjikā*).” *Journal of Jaina Studies* (ジャイナ教研究) 29 (2023): 13-56.

Shimizu, Akiko (清水晶子). “The Mūrtipūjaka Śvetāmbara Community in North Delhi.” *Jaina Studies: Newsletter of the Centre for Jaina Studies* 3 (2008): 28-29.

Takahashi, Takanobu (高橋孝信). “Jain Authorship in Tamil Literature: A Reassessment.” *Studies in Indian Philosophy and Buddhism* (インド哲学仏教学研究) 18 (2011): 1-12.

Tanaka, Kanoko (田中かの子). “On the Life-centred Ethics of Zoroastrianism and Jainism: A Study of Indo-Iranian Religions.” *Jain Journal* Vol.42, No.1 (2007): 7-18.

Tokunaga, Muneo (徳永宗雄). “On the Origin of the Leśyās.” *The Journal of Philosophical Studies* (哲学研究) 580 (2005): 1-12.

Tsubakitani, Yuki and Tanaka, Masakazu (椿谷

友希・田中雅一). “The Indian Community in Kobe: Diasporic Identity and Network,” in *Rising India and Indian Communities in East Asia*, eds. K. Kesavapany, A. Mani, and P. Ramasamy, pp. 269-284. Heng Mui Keng Terrace: ISEAS–Yusof Ishak Institute, 2008. [\*A study on Indian diasporas, including Jains, living in Kobe, Japan --- Kawasaki.]

Ueda, Masahiro (上田真啓). “*Nikṣepa* in *Tattvārthādhigamasūtra*: A Method for the Investigation of Words.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.60, No.3 (2012): 1169-1173.

———. “Study on the Exegetical Literature of Śvetāmbara Jainas: Relationship between *Ṭīkā* and *Cūrṇi* of the *Vyavahārasūtra*.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.65, No.3 (2017): 1130-1135.

———. “Jaina Studies in Japan: Conference Reports.” *Jaina Studies: Newsletter of the Centre for Jaina Studies* 12 (2017): 16-17.

———. “Jaina Studies in Japan: Conference Reports.” *Jaina Studies: Newsletter of the Centre for Jaina Studies* 13 (2018): 15-16.

———. “Jaina Studies in Japan: Conference Reports.” *Jaina Studies: Newsletter of the Centre for Jaina Studies* 14 (2019): 14-15.

———. “Jaina Studies in Japan 2021: Conference Reports.” *Jaina Studies: Newsletter of the Centre for Jaina Studies* 17 (2022): 12-13.

———. “Jaina Studies in Japan 2022: Conference Reports.” *Jaina Studies: News-*

*letter of the Centre for Jaina Studies* 18 (2023): 49-51.

Unebe, Toshiya and Fujinaga, Shin (畝部俊也・藤永伸). “Society for Jaina Studies, Japan.” *Jinamañjarī* Vo.17, No.1 (1998): 71-74.

Uno, Atsushi (宇野惇). “A Study of Jaina Epistemology: *prāmānya-vāda*.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (印度學佛教學研究) Vol.15, No.1 (1966): 457-452.

———. “A Study of Syādvāda: With Special Reference to Syādvādamañjarī.” *Proceedings of the Faculty of Letters of Tokai University* (東海大学紀要文学部) 12 (1969): 3-21.

———. “Jaina Studies in Japan.” *Jain Journal* Vol.8, No.2 (1973): 73-78. [\*Reprinted in *Jain Journal* Vol.35, No.4 (2001): 173-178. --- Kawasaki.]

———. “Some Remarks on the Pramanya-vada of Jainism,” in *Siddhāntācārya Paṃḍita Kailāśacandra Śāstrī Abhinanda-Grantha*, eds. Vāgīśa Śāstrī et al., pp. 542-547. Rīvā: Siddhāntācārya Paṃḍita Kailāśacandra Śāstrī Abhinandana Samiti, 1980.

———. “Recent Jaina Scholarship in Japan.” *Jinamañjarī* Vo.14, No.2 (1996): 1-7.

———. “‘Antarvyāpti’ Interpreted in Jainism,” in *Jambū-jyoti: Munivara Jambūvijaya Festschrift*, eds. M.A. Dhaky & J.B. Shah, pp. 310-323. Ahmedabad: Shresthi Kasturbhai Lalbhai Smarak Nidhi, n.d. (2004?)

Uno, Tomoyuki (宇野智行). “A Debate between Materialists and Jainas on the

Interpretation of *Bṛhadāraṇyakopaniṣad* 2.4.12,” in *Approaches to Jaina Studies: Philosophy, Logic, Rituals and Symbols*, eds. N.K. Wagle and Olle Qvarnström, pp. 238-249. Toronto: The Centre for South Asian Studies, 1999.

———. “Ontological Affinity between the Jainas and the Mīmāṃsakas Viewed by Buddhist Logicians,” in *Dharmakīrti’s Thought and Its Impact on Indian and Tibetan Philosophy: Proceedings of the Third International Dharmakīrti Conference, Hiroshima, November 4-6, 1997*, ed. Shoryu Katsura, pp. 419-431. Wien: Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften, 1999.

Wakiryō, Itaru (脇領至). *Abhinava Dharmabhūṣaṇa Yati’s Nyāya-Dīpikā: Primary Text of Jaina Logic & Epistemology*. Delhi: Pratibha Prakashan, 2001.

———. “Reevaluation of the *Nyāya Dīpikā*.” *Journal of Jaina Studies* (ジャイナ教研究) 9 (2004): 37-67.

Watanabe, Kenji (渡辺研二). “Viyāhapannatti XV Studies (3),” in *History and Thought of Buddhism: A Collection of Articles in Commemoration of the Seventieth Birthday of Dr. Taishun Mibu* (仏教の歴史と思想 : 壬生台舜博士頌寿記念), pp. 71-84. Tokyo: Daizo Shuppan, 1985.

———. “Some Notes on the Expression *sabba-vārī-/ savva-vāraṃ*.” *Bulletin de’Etudes Indiennes* 5 (1987): 375-386.

———. “Notes on the ‘*Bhāvaṇā*’, 3rd *Cūḷā* of

the *Āyāraṅga-sutta* II,” in *Jain Studies in Honour of Jozef Deleu*, eds. Rudy Smet and Kenji Watanabe, pp. 475-484. Tokyo: Hon-no-tomoshia, 1993.

———. “Avoiding All Sinful Acts by both Buddha and Mahāvīra.” *Bulletin de’Etudes Indiennes* 11-12 (1993-94): 229-232.

———. “A Select Comparison of Passages from Early Buddhist and Jain Texts.” *Jinamañjarī* Vo.14, No.2 (1996): 38-52.

———. “A Comparative Study of Passages from Early Buddhist and Jain Texts: Āyār II. 15 : Dhṛ. 183 and Isibh. 29.19 : Dhṛ. 360, 361,” in *Essays in Jaina Philosophy and Religion = Warsaw Indological Studies Volume 2*, ed. Piotr Balcerowicz, pp. 137-152. Delhi: Motilal Banarsidass, 2002.

———. “Bee and Mendicant: The Two Different Versions in the Extant Jaina Āgamas,” in *Jaina Scriptures and Philosophy*, eds. Peter Flügel and Olle Qvarnström, pp. 60-67. London & New York: Routledge, 2015.

Yagi-Hohara, Ayako (八木 (芳原) 綾子). “A Sketch of the Life of Terāpanthi Nuns.” *Journal of Jaina Studies* (ジャイナ教研究) 19 (2013): 69-80.

———. “On the Meaning of AMg. *allīṇa, palīṇa*,” in *Jaina Studies: Select Papers presented in the ‘Jaina Studies’ Section at the 16th World Sanskrit Conference, Bangkok, Thailand & the 14th World Sanskrit Conference, Kyoto Japan*, eds. Nalini Balbir and Peter Flügel, pp. 7-13. New Delhi: DK Publishers, 2018.

Yajima, Michihiko (矢島道彦). “A Note on Āyāraṅga-Sutta I.2.6.3.” *Sambodhi* 9 (1980-81): 69-75.

———. “Mythical Traditions Relating to a Jina’s First Sermon and the Jaina-Maṅḍala.” in *Buddhism and Jainism: Essays in Honour of Dr. Hojun Nagasaki on His Seventieth Birthday* (仏教とジャイナ教 : 長崎法潤博士古稀記念論集), pp.3-28. Kyoto: Heirakuji Shoten, 2005.

———. “Freedom of Thought and Jainism: Professor Hajime Nakamura’s Contribution to the Study of Jainism,” in *Buddhist Thought and Culture: Indo Japan Seminar on Buddhist Philosophy with Special Reference to the Thoughts and Works of Professor Hajime Nakamura*, ed. S.R. Bhatt, pp. 251-274. Delhi: Originals, 2005.

———. “A Comparative Study of the Mātāṅga-jātaka and Its Jaina Version.” *Bulletin of the Institute of Buddhist Culture, Tsurumi University* (鶴見大学仏教文化研究所紀要) 12 (2007): 1-57.

———. “Mona: The Path of the Sage.” *Journal of Buddhist Studies* (駒澤大学佛教学部論集) 48 (2017): 400-385.

Yamaguchi, Eiichi (山口英一). “*Mati* in the *Tattvārthādhigamasūtra*.” *Jinamañjarī* Vo.14, No.2 (1996): 19-37.

Yamahata, Tomoyuki (山畑倫志). “Compound Verbs in Jain Apabhraṃśa Texts.” *Journal of Jaina Studies* (ジャイナ教研究) 15 (2015): 65-80.



———. *Jain Hagiographies and Jain Community*. RINDAS Series of Working Papers 37. Kyoto: The Center for South Asian Studies, Ryukoku University (RINDAS), 2022.

Yamazaki, Moriichi (山崎守一). “Dhuya in Early Jainism,” in *Buddhist and Indian Studies in Honour of Professor Sodo Mori*, pp. 493-509. Hamamatsu: Kokusai Bukkyoto Kyokai, 2002.

Yamazaki, Moriichi and Ousaka, Yumi (山崎守一・逢坂雄美). *Isibhāsiyāim: Pāda Index and Reverse Pāda Index*. Philologica Asiatica Monograph Series 2. Tokyo: Chūō Academic Research Institute, 1994.

———. *Āyāraṅga: Pāda Index and Reverse Pāda Index*. Philologica Asiatica Monograph Series 3. Tokyo: Chūō Academic Research Institute, 1994.

———. *Sūyagaḍa: Pāda Index and Reverse Pāda Index*. Philologica Asiatica Monograph Series 4. Tokyo: Chūō Academic Research Institute, 1994.

———. *Uttarajjhāyā: Pāda Index and Reverse Pāda Index*. Philologica Asiatica Monograph Series 5. Tokyo: Chūō Academic Research Institute, 1994.

———. *A Pāda Index and Reverse Pāda Index to Early Jain Canons: Āyāraṅga, Sūyagaḍa, Uttarajjhāyā, Dasaveyāliya, and Isibhāsiyāim*. Tokyo: Kosei Publishing, 1995.

———. *Dasaveyāliya: Word Index and Reverse Word Index*. Philologica Asiatica Monograph Series 6. Tokyo: Chūō Academic Research Institute, 1996.

———. *Isibhāsiyāim: Word Index and Reverse Word Index*. Philologica Asiatica Monograph Series 7. Tokyo: Chūō Academic Research Institute, 1996.

———. *Āyāraṅga: Word Index and Reverse Word Index*. Philologica Asiatica Monograph Series 8. Tokyo: Chūō Academic Research Institute, 1996.

———. *Sūyagaḍa: Word Index and Reverse Word Index*. Philologica Asiatica Monograph Series 9. Tokyo: Chūō Academic Research Institute, 1996.

———. *Uttarajjhāyā: Word Index and Reverse Word Index*. Philologica Asiatica Monograph Series 11. Tokyo: Chūō Academic Research Institute, 1996.

———. *A Word Index and Reverse Word Index to Early Jain Canonical Texts: Āyāraṅga, Sūyagaḍa, Uttarajjhāyā, Dasaveyāliya, and Isibhāsiyāim*. Philologica Asiatica Monograph Series 15. Tokyo: Chūō Academic Research Institute, 1999.

Yamazaki, Moriichi, et al. *Dasaveyāliya: Pāda Index and Reverse Pāda Index*. Philologica Asiatica Monograph Series 1. Tokyo: Chūō Academic Research Institute, 1994.

# アジア研究図書館利用案内

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia/user-guide>

場 所	総合図書館4階
開館日／閉館日	総合図書館の開館日・閉館日に準じます。
開館日	以下閉館日を除くすべての日
閉館日	年末年始(12月28日～1月3日) 定例休館日(おおむね毎月第4木曜日) 夏季の一斉休業日(2日間) 試験等大学行事のための閉館日 その他臨時閉館日

## 開館時間

	曜日等	通常期	8月・3月
	月～金曜日	8:30～22:30	8:30～21:00
	土・日・祝日	9:00～19:00	9:00～17:00

学外の方もご利用いただけます。詳しくはホームページをご覧ください。

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general/user-guide/outside/gakugai>

## 次号の予定

第16号は令和6年7月1日に発行予定です。

ニューズレターへの情報提供、投稿や、記事へのご要望があれば、東京大学アジア研究図書館 ([asia.lib\[at\]lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:asia.lib[at]lib.u-tokyo.ac.jp))までお知らせ下さい。

## 編集後記

第15号をお届けします。

今回は、目録刊行報告、弊館所蔵資料の蔵書評価および集書方針への提言、海外公文書館調査記、最後にレファレンスの一事例と、多彩な内容で構成されることになりました。それぞれの領域を専門とする学生、教員、また図書館関係者の方々のお役に立てば幸いです。(J)